Education and Culture DG
Lifelong Learning Programme

施設編 – セッション7
自己評価の質問

1. 個性のある強靭な人格を形成・認識するには、子どもたちが
    a. 子どもたちを支えてくれた人すべてを記憶していられるように手助けする
    b. 過去のことをすべて忘れて、一からやり直せるよう手助けする
    c. 過去のことをすべて忘れて、実親とのつながり作りからやり直せるよう手助けする
    d. 過去のことをすべて忘れて、周囲とのつながり作りからやり直せるよう手助けする

2. 専門養育者（施設スタッフ）は、子どもの実親に対して前向きな姿勢を持つべきであり、そうすることで
    a. 子どもたちは、施設スタッフに愛着をより感じるようになる
    b. 子どもたちは、実親と経験した問題や困難を忘れるようになる
    c. 子どもたちは、自分のことを恥じることなく、自尊心を持てるようになる
    d. 子どもたちは、いつか施設のスタッフになる意思を持つようになる

3. 専門養育者（施設スタッフ）は、
    a. 子どもの十分な成長には実親とのつながりが不可欠であるという理由から、可能な限り早く、親許に帰れるよう努力しなければならないことを子どもたちに強調すべきである。
    b. 子どもたちの家族は施設のスタッフだけであることを強調すべきである
    c. 生みの親と育ての親の両方を持てるのは幸せなことであることを子どもたちに強調すべきである
    d. 上記のいずれにも該当せず

4. 家庭外に置かれた子どもたちを迎え入れるとき、専門養育者（施設スタッフ）は、
    a. その子に実親のことを忘れさせ、以後、実親のことには触れず、施設で安心して暮らせるようにするべきである
    b. しばらくの間だけ、実親について触れずに、子どもたちが施設で安心して暮らせるようにするべきである
    c. 実親について最初から話しを始めるべきである
    d. 子どもの性格に応じて、実親について最初から話しを始めるか、または実親については一切話さずにおくべきである

5. 実親に対して前向きな姿を子どもたちに示すために、専門養育者（施設スタッフ）は子どもたちに、
    a. 子どもたちを決して傷つけることのない立派な親であると説明するとよい
    b. 実親は単に実子の育てたくないというだけで、実はいい人たちであると説明するとよい
    c. 実親のことを可能な限り、曖昧に説明して、子どもたちが実親を忘れられるようにするとよい
    d. 実親は子どもたちを自ら育てることを望んでいるが、実際にそれは難しいことであること説明するとよい

答え1 = a、2 = c、3 = c、4 = b、5 = d